

17～18世紀のハンブルクにおける 受難曲演奏スケジュールの形成

加藤 拓未

受難曲とは、新約聖書に含まれるマタイ福音書（第26, 27章）、マルコ福音書（第14, 15章）、ルカ福音書（第22, 23章）、ヨハネ福音書（第18, 19章）で述べられているキリストの磔刑の物語にもとづく楽曲全般のことである。その歴史は古く、最も古い記録は4世紀のエルサレムにまでさかのぼるとされる⁽¹⁾。

当初、単旋律聖歌の一環として朗唱された受難曲は、15世紀に入るとフランドル楽派の声楽ポリフォニー様式の影響を受けて多声化が進んだ。そして17世紀以降はオペラ・オラトリオの隆盛を受けて、レチタティーヴォとアリアの交替形式が導入され、器楽も編成に含まれるようになり、作品の規模が拡大していった。

16世紀の宗教改革によってドイツの中北部に生じたルーテル教会（ルター派教会）の礼拝においても、受難曲演奏は受け継がれた。当初はヨハン・ヴァルター Johann Walter(1496～1570)のドイツ語受難曲(1530年)に代表される無伴奏の声楽のみによる朗唱風の作品が主流であったが、やはり17世紀からイタリアのオペラ・オラトリオの様式を取り込んだ大規模な作品がつくられるようになった。ヴァルターの受難曲のような素朴な作風の作品はともかく、作品規模の拡大は経費の増加を意味することから、大規模な受難曲の演奏機会は限定的でもあった。しかし

ながら、演奏が許される教会では、その教義の重要性からもオペラ・オラトリオ風の受難曲が、年間の礼拝音楽のなかでも最大規模の演奏に位置付けられた。

こうした条件のなか、例外的にオペラ・オラトリオ風受難曲の演奏の定期化を積極的に、そして継続的に推し進めたのが、ドイツ北部の帝国自由都市ハンブルクである。ハンブルクではハンザ貿易の成功による豊かな経済を背景に、他の地域に先んじて大規模な受難曲の導入を実現させた。市参事会は1657年に礼拝奏楽のガイドラインである『音楽規則』*Ordnung der Musik*を公にし、そのなかで受難曲の教会暦上の演奏スケジュールを定め、トーマス・ゼレ Thomas Selle (1599～1663)、クリストフ・ベルンハルト Christoph Bernhard (1628～1692)、ヨアヒム・ゲルステンビュッテル Joachim Gerstenbüttel (1647～1721)、ゲオルク・フィリップ・テレマン Georg Philipp Telemann (1681～1767)、カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ Carl Philipp Emanuel Bach (1714～1788)といった歴代の市音楽監督(カントル)に受難曲を作曲・演奏させた。こうしてハンブルクは17～18世紀を通じ、ルーテル教会圏において最も盛んに受難曲を演奏した都市となったのである。

先行研究を振り返ると、戦前の研究であるリーゼロッテ・クリューガーの『17世紀のハンブルクの音楽組織』(1933年)⁽²⁾に上記の『音楽規則』における受難曲演奏スケジュールの規定内容が報告されているほか、レジナルド・L・サンダースの博士論文「カール・フィリップ・エマヌエル・バッハと1768～1788年のハンブルク主要教会における礼拝音楽」(2001年)⁽³⁾には、エマヌエル・バッハ時代の受難曲演奏スケジュールの実態が明らかにされている。ところが、両研究に挟まれた1657年から1768年までの約1世紀の受難曲演奏スケジュールについては、現在のところまとまった研究は発表されていない。そこで本稿は、

当時ハンブルクで販売されていた手帳『シュライプ＝カレンダー』を主な資料とし、ハンブルクの受難曲演奏スケジュールがいかなる歴史の変遷を経て形成されていったのか、その解明を目的とする。

1. 『音楽規則』の受難曲演奏スケジュール

はじめにクリューガーの先行研究より、1657年に定められた『音楽規則』に記載されている受難曲演奏スケジュールを確認しておきたい⁽⁴⁾。この規則では、教会暦にしたがって1年間、毎週末の礼拝において、市内に複数ある教会のうち、どの教会で奏楽を行うか、そのスケジュールの概要が示されている。

それによると、四旬節には聖ペトロ教会、聖ニコラウス教会、聖カタリーナ教会、聖ヤコブ教会の4つの主要教会（当時、聖ミヒャエル教会は、まだ主要教会ではなかった）と、聖霊教会、聖マリア・マグダレーナ教会、聖ゲルトルート教会の3つの副次教会の、計7教会で受難曲を演奏することが指示されている（表1参照）。礼拝の時間帯は、いずれ

表1 『音楽規則』（1657）の受難曲演奏スケジュール

日程	教会	時間
四旬節第3主日	聖ペトロ教会	朝8時から9時
四旬節第4主日	聖ニコラウス教会	朝8時から9時
四旬節第5主日	聖カタリーナ教会	朝8時から9時
枝の主日の前の金曜日	聖霊教会	朝8時から9時
枝の主日	聖ヤコブ教会	朝8時から9時
枝の主日の後の月曜日	聖マリア・マグダレーナ教会	朝8時から9時
枝の主日の後の火曜日	聖ゲルトルート教会	朝8時から9時

※ は主要教会を示す。

も8時から9時までの午前中である。

『音楽規則』では、移動祝日である復活祭によって生じる例外事項についても言及している。固定祝日であるマリアへのお告げの日（3月25日）が、四旬節中の日曜日、ないし聖週間、および復活祭（日・月・火の3日間）にあたった際、その年の受難曲演奏は一週間繰り上げて、四旬節第2主日から始めるよう指示されている。

ところが、指示はこれにとどまり、修正された日程上のどこでマリアへのお告げの日の礼拝を行うか、そのことに関しては具体的に触れていない。そこで、ふたつのパターンが考えられる。まず、聖週間前の四旬節中の日曜日とお告げの日が重なった場合、その際はお告げの日の礼拝を優先し、主要教会の受難曲演奏を一週間ずつ、早く繰り上げた（後述の1683年の演奏スケジュールを参照）⁽⁵⁾。そして、聖週間および復活祭（日・月・火）にお告げの日が来てしまった場合は、副次教会の受難曲演奏を優先し、お告げの日の礼拝を枝の主日に行い、主要4教会の受難曲演奏は、全体的に一週間ずつスケジュールを繰り上げたと推測される⁽⁶⁾。

2. 『シュライプ=カレンダー』

ハンブルクの教会音楽の実態を考察するうえで、欠かすことのできない資料が『シュライプ=カレンダー』Schreib=Calenderである⁽⁷⁾。

『シュライプ=カレンダー』とは、17世紀半ば頃からハンブルクで一般に販売されていた小型の個人用手帳のことである。「カレンダー」の名称通り、1月から12月までの月日が一覧で示されている。そのほかにも、現代の私たちが使用している手帳と同様、日常生活に役立つような雑多な情報も盛り込まれている。たとえば、教会暦や貨幣の交換レート、潮の干満や日の出・日の入りの時刻などである。手帳によっては、ペー

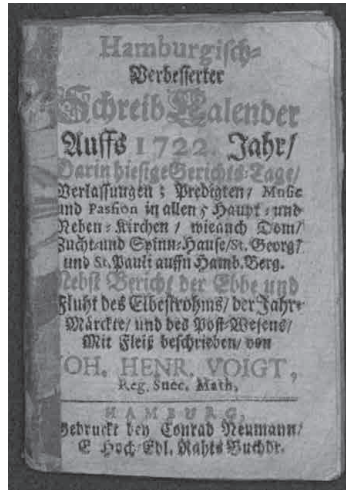


図1 1722年の『シュライプ=カレンダー』の表紙⁽⁸⁾

ジ毎に白紙のメモ用紙が挿入されているものもある。

当時のハンブルクでは、サイズや種類の異なる個人用手帳が何種類か出回っていた。『シュライプ=カレンダー』はそうしたものの一種類にすぎないが、この手帳ならではの重要な特色がある。それは、毎週末にハンブルクの各教会でおこなわれる礼拝奏楽の年間スケジュールが網羅されていることである。むろんのこと、受難曲の演奏日程も明記されている。

たとえば図2は1722年に発行された『シュライプ=カレンダー』で、この見開きで3月下旬のページである。左ページに教会暦、その他の情報があり、右ページの3月22日のところに「聖ヤコブ教会 受難曲」JACOBI Passio.と記載されており、同様に26日の「古(小)ミヒヤエル教会 受難曲」Alt Mich. Passio., 27日の「聖霊教会 受難曲」H. G. Passio., 28日の「聖ヨハネ教会 受難曲」Joh. Passio., 29日の「聖ミヒヤ

16 Gabriel	winbig	11	6	16	
17 Berdn	9 u	12	7	17	
18 Patrit	20. D)	1	8	18	
19 Joseph		2	9	19	Zuchthaus Nr.
20 Matron		3	10	20	† 11. Verlassung.
21 Bened.	Tag u.	3	10	21	
Jesus Steing.	Joh. 8.			22	JACOBI Passio und Dom.
22 Jod.	XX Nacht	4	11	23	
23 Erod.	XX gleich	5	12	24	C.
24 Casim.	6. H/	6	1	25	C. C.
25 m. Verh.	26. D)	7	2	26	Mit Mich. Passio, Spinnhpr.
26 Eman		8	3	27	H. G. Passio, Ger. geschloss.
27 Gustav.	kalt/	8	3	28	Joh. Passio.
28 Gideon	etwas	9	4		
Einr. Christi	Matth. 21			29	MICH. Passio.
29 D. Palm	beser/	10	5	30	Mar. Magd. Passio,
30 Ebon.	Comn	10	5	31	Gertr. Passio.
31 Verlag	schein.	11	6		Tag 12. Stund/Nacht 12. St.
☉ Puffg. 6. Uhr/ Watery. 6. Uhr.					

図2 1722年の『シュライプ=カレンダー』の3月16～31日のページ⁽⁹⁾

エル教会 受難曲」MICH. Passio., 30日の「聖マリア・マグダレーナ教会 受難曲」Mar. Magd. Passio., 31日の「聖ゲルトルート教会 受難曲」Gertr. Passio.とつづいている。教会名が大文字（JACOBIやMICH.）のものは主要教会を意味している（補遺参照）。

バロック時代の音楽作品の多くは、演奏日を特定できないことを思えば、17世紀後半から18世紀にかけて、ハンブルクの教会音楽に関する詳細な演奏日程の情報を提供してくれる『シュライプ=カレンダー』の価値は甚大と言える。

エマヌエル・バッハ時代（1768～1788年）の『シュライプ=カレンダー』に関しては、サンダースの博士論文のなかで報告されているが、それ以前のものに関しては、これまで把握されていなかった⁽¹⁰⁾。そこで、筆者は今回の研究をまとめるにあたって、エマヌエル・バッハ時代以前の『シュライプ=カレンダー』を調査してみたが、かなりの数の現存が判明した。その結果を以下の表2にまとめた。

17～18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成

表2 現存する『シュライプ＝カレンダー』（1720年以前のもの）

年	データ提供者	出版者	所蔵	整理記号
1 1683	Johann Henrich Voigt	Casper Holwein	D-Ha	Z 800 0002
2 1684	Johann Henrich Voigt	Georg Rebenlein	D-Ha	Z 800 0008
3 1689	Johann Henrich Voigt	Georg Rebenlein	D-Ha	Z 800 0002
4 1690	表紙欠損のため不明	表紙欠損のため不明	D-Ha	Z 800 0008
5 1692	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
6 1698	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
7 1701	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
8 1702	Wolfgang H. Adelungk	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
9 1703	Wolfgang H. Adelungk	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
10 1704	Wolfgang H. Adelungk	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
11 1705	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
12 1706	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
13 1707	Wolfgang H. Adelungk	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
14 1708	Wolfgang H. Adelungk	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
15 1709	Wolfgang H. Adelungk	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
16 1710	Wolfgang H. Adelungk	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
17 1711	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
18 1712	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-SWI	Hb 520
19 1713	Paul Halcken	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
20 1714	Paul Halcken	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
21 1716	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
22 1718	Paul Halcken	Conrad Neumann	D-Hs	Scrin A 541
23 1720	Paul Halcken	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
24 1721	Paul Halcken	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800 0008
25 1722	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800/0008
26 1723	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumann	D-Ha	Z 800/0008
27 1724	Johann Henrich Voigt	Conrad Neumanns Wittwe	D-Ha	Z 800/0008
28 1725	Paul Halcken	Conrad König	D-Ha	Z 800/0008
29 1726	Paul Halcken	Conrad König	D-Ha	Z 800/0008
30 1731	Hermann Wahn	Conrad König	D-Hs	Scrin. A/541
31 1738	Johann Henrich Voigt	Conrad König	D-Ha	Z 800/0008
32 1739	Johann Henrich Voigt	Conrad König	D-Ha	Z 800/0008
33 1740	Hermann Wahn	Conrad König	D-Hmk	MKGB RAR-Jb
34 1751	Matthias Rohlfs	Conrad König	D-MÜu	Rara 49 4623
35 1752	Matthias Rohlfs	Conrad König	D-Hs	Scrin. A/541

凡例

- D-Ha Staatsarchiv Hamburg (ハンブルク州立公文書館)
D-Hs Staats- und Universitätsbibliothek Hamburg (ハンブルク州立・大学図書館)
D-Hmk Museum für Kunst und Gewerbe-Sammlung Buchkunst (ハンブルク美術工芸博物館)
D-MÜu Universitäts- und Landesbibliothek Münster (ミュンスター州立・大学図書館)
D-SWI Landesbibliothek Mecklenburg-Vorpommern Schwerin (メクレンブルク州立図書館)

現存最古は1683年のもので、その年からテレマンが市音楽監督に着任するまでの38年のうち、23年分の存在が確認されている。つまり、約60%が現存していることとなる。これに対しテレマン在任の1722～67年は、約24%に相当する11年分のみに限られている。このことから、テレマン時代以前の方が資料状況は恵まれていると言える。

これらの『シュライプ=カレンダー』をもとに、四旬節の受難曲演奏スケジュールを見てゆくと、少しずつ変化を示していることが判明した。そこで、つぎにその受難曲演奏スケジュールの変遷を辿ってみることにする。

3. 受難曲演奏スケジュールの変遷

現存最古の『シュライプ=カレンダー』である1683年のものから確認してみよう。これは、『音楽規則』の施行から26年後の受難曲の演奏スケジュールである（表3）。

この年は、四旬節第5主日とマリアへのお告げの日（3月25日）が重なっているため、聖ペトロ、聖ニコラウス、聖カタリーナの3教会の受難曲演奏が一週間ずつ繰り上がっている。また、『音楽規則』と比較すると、聖ヨハネ教会、聖ミヒヤエル教会、聖三位一体教会の3つの副次教会でも受難曲が演奏され、計7教会から計10教会へと演奏回数が増えている。つまり、1657～1683年の間に、受難曲を演奏する教会の増加が求められたことになる。翌1684年の『シュライプ=カレンダー』に記載されている受難曲演奏スケジュールは前年と同様である。

ただし、このスケジュールは、1685年に聖ミヒヤエル教会が本格的に主要教会へと昇格したことにより、修正を余儀なくされた。枝の主日に一番若い主要教会である聖ミヒヤエル教会の受難曲演奏が入り、従来4つの主要教会の上演は、一週ずつ早く繰り上がることになったのであ

17～18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成

表3 1683年の受難曲演奏スケジュール

日程 (旧暦) *	教会
① 3月04日 四旬節第2主日	聖ペトロ教会
② 3月11日 四旬節第3主日	聖ニコラウス教会
③ 3月18日 四旬節第4主日	聖カタリーナ教会
3月25日 四旬節第5主日	(カタリーナ教会で「お告げの日」礼拝)
④ 3月30日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会
⑤ 3月31日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会
⑥ 4月01日 枝の主日	聖ヤコブ教会
⑦ 4月02日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マグダレーナ教会
⑧ 4月03日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルト教会
⑨ 4月02日 聖木曜日	聖ミヒヤエル教会
⑩ 4月03日 聖金曜日	聖三位一体教会 (通称, 聖ゲオルク教会)

※ は主要教会を示す。

* ドイツではユリウス暦からグレゴリオ暦への転換が遅れ、1700年から新暦に変わった。そのため、ここでは旧暦の月日をあげている。

る。

問題は、それだけではなかった。聖ミヒヤエル教会では、毎年、四旬節の第3日曜日に、教会の建物や財産を管理する役職ユーラト（教区で2名選ばれ、任期2年で毎年1名が交代）の就任式をおこなっていた。ところが、主要教会への昇格とともに、その就任式の演奏をカントルが担当することになったため、その日に受難曲の演奏を行うことができなくなってしまったのである。そこで、四旬節の第3主日を除くかたちで、ほかの主要教会の演奏日はさらに繰り上がることになった。つまり、新しい主要教会の増加によって、新スケジュールでは、例年より受難曲演奏の開始を2週間早めることになったのである⁽¹¹⁾。

1689年の四旬節では、マリアへのお告げの日が、聖週間中に入ってしまう、例外の日程となっているため、ここでは1689年と同内容で、

表4 1690年の受難曲演奏スケジュール

日程 (旧暦) *	教会
① 3月09日 四旬節主日	聖ペトロ教会
② 3月16日 四旬節第2主日	聖ニコラウス教会
3月23日 四旬節第3主日	(聖ミヒヤエル教会での就任式礼拝)
③ 3月30日 四旬節第4主日	聖カタリーネン教会
④ 4月03日 木曜日	ヴェルク・ウント・ツフトハウス教会
⑤ 4月06日 四旬節第5主日	聖ヤコブ教会
⑥ 4月11日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会
⑦ 4月12日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会
⑧ 4月13日 枝の主日	聖ミヒヤエル教会
⑨ 4月14日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マグダレーナ教会
⑩ 4月15日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会
⑪ 4月16日 枝の主日後の水曜日	ペストホーフ教会
⑫ 4月17日 聖木曜日	聖パウロ教会
⑬ 4月18日 聖金曜日	聖三位一体教会

※ は主要教会を示す。

* ドイツではユリウス暦からグレゴリオ暦への転換が遅れ、1700年から新暦に変わった。そのため、ここでは旧暦の月日をあげている。

かつ通常の日程を示す1690年の『シュライプ=カレンダー』に記載されている受難曲演奏スケジュールをあげておく(表4)。

1684年の段階と比べ、1689～1690年の受難曲演奏スケジュールでは、ヴェルク・ウント・ツフトハウス教会、ペストホーフ教会、聖パウロ教会の3教会における演奏も増えている。さらに1692年の『シュライプ=カレンダー』では、1690年の時点ではなかった小ミヒヤエル教会での演奏も加わっており、受難曲の演奏は計14教会にのぼっている。

* * *

ハンブルクでは1657年に『音楽規則』が制定され、当初、市の音楽監督は7つの教会で受難曲を演奏するよう求められた。さらに現存する『シュライプ=カレンダー』を調査したところ、受難曲の演奏回数は年々増えてゆき、1692年に最大の計14教会を数えるにいたった。

1693～97年の『シュライプ=カレンダー』が残っていないので、正確な年代はわからないが、ヴェルク・ウント・ツフトハウス教会の受難曲演奏は、なぜか1698年のスケジュールからは外れており、受難曲演奏は計13教会に減っている。

表5 受難曲スケジュールの変遷（年表）

1657年	……	4つの主要教会と3つの副次教会で受難曲演奏（計7教会）
1683年	……	4つの主要教会と6つの副次教会で受難曲演奏（計10教会）
1685年	……	聖ミヒャエル教会が主要教会へ昇格（主要教会が5つに）
1689年	……	5つの主要教会と8つの副次教会で受難曲演奏（計13教会）
1692年	……	5つの主要教会と9つの副次教会で受難曲演奏（計14教会）

その後もヴェルク・ウント・ツフトハウス教会がスケジュールに入ったり、入らなかつたりといった微妙な変更は見られるが、1692年の時点で、のちのテレマン時代（1722～67年）およびエマヌエル・バッハ時代（1768～88年）において受難曲演奏が行われた教会のすべてがスケジュール上に出そろい、以降、基本的にこれらの13教会で安定している。したがって、1692年に18世紀へとつづく受難曲演奏のスケジュールが形成されたと見てよいだろう。なお、現存するテレマン時代の『シュライプ=カレンダー』から判明した受難曲演奏日程は、すべて補遺として報告しておいた。

演奏スケジュールは、固定祝日であるマリアへのお告げの日（3月25

日)との兼ね合いによって、たびたび修正を余儀なくされた。例外のスケジュールとして興味深いのは、1706年のもので、マリアへのお告げの日が枝の主日前の木曜日にあたり、その結果、お告げの日の礼拝を優先し、当初予定していた小ミヒヤエル教会の受難曲演奏を一週間早く繰り上げるかたちで日程を変更している。前述のように、このケースでは副次教会の受難曲演奏が優先されるはずだが、なぜかこの年はそうした対応にはならなかった。この例が示すように、ハンブルクの受難曲は、時として生じるアクシデントや例外的なハプニングによって、微妙に日程を修正しながら、毎年演奏されたわけである⁽¹²⁾。

こうしたハンブルクの受難曲演奏スケジュールは、けっして当時のルーテル教会における一般的な事例ではなかった。たとえば、テレマンと同時代にライプツィヒ市の音楽監督をつとめたヨハン・セバスティアン・バッハ Johann Sebastian Bach (1685～1750) は、毎年、聖金曜日の午後に受難曲を1度だけ演奏すればよかったのである。確かに貿易都市のハンブルクと大学都市のライプツィヒでは、教区の規模からして異なるのは事実だが、再演のくり返しとはいえ13回の受難曲演奏を行うテレマンと、1回のバッハでは、その労苦の差の大きさは否めないだろう。こうした比較からも、いかに当時のハンブルクにおける受難曲演奏が突出していたものであったかが容易にうかがうことができる。

17～18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成

補遺

現存するテレマン時代の『シュライプカレンダー』に記載されている受難曲演奏のスケジュール

1) 1722年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1722, D-Ha, Z 800/0008

	日時	教会
	2月15日 五旬節主日	(聖ミヒャエル教会での通常礼拝)
①	2月22日 四旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	3月01日 四旬節第2主日	聖ニコラウス教会 受難曲
	3月08日 四旬節第3主日	(聖ミヒャエル教会での就任式礼拝)
③	3月15日 四旬節第4主日	聖カタリーナ教会 受難曲
④	3月22日 四旬節第5主日	聖ヤコブ教会 受難曲／大聖堂 受難曲
⑤	3月26日 枝の主日前の木曜日	小ミヒャエル教会 受難曲
⑥	3月27日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑦	3月28日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
⑧	3月29日 枝の主日	聖ミヒャエル教会 受難曲
⑨	3月30日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	3月31日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	4月01日 枝の主日後の水曜日	ペストホーフ教会 受難曲
⑫	4月02日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	4月03日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

2) 1723 年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1723, D-Ha, Z 800/0008

(注) この年は、受胎告知日（3月25日）が聖週間と重なる

	日時	教会
	1月31日 六旬節主日	(聖ミヒヤエル教会での通常礼拝)
①	2月07日 五旬節主日	<input type="checkbox"/> 聖ペトロ教会 受難曲
②	2月14日 四旬節主日	<input type="checkbox"/> 聖ニコラウス教会 受難曲
③	2月21日 四旬節第2主日	<input type="checkbox"/> 聖カタリーナ教会 受難曲
	2月28日 四旬節第3主日	(聖ミヒヤエル教会での就任式礼拝)
④	3月07日 四旬節第4主日	<input type="checkbox"/> 聖ヤコブ教会 受難曲／大聖堂 受難曲
⑤	3月14日 四旬節第5主日	<input type="checkbox"/> 聖ミヒヤエル教会 受難曲
⑥	3月18日 枝の主日前の木曜日	小ミヒヤエル教会 受難曲
⑦	3月19日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑧	3月20日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
	3月21日 枝の主日	(聖カタリーナ教会で受胎告知日の礼拝?)
⑨	3月22日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	3月23日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	3月24日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	3月25日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	3月26日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

17～18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成

3) 1724年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1724, D-Ha, Z 800/0008

(注) この年は閏年。

	日時	教会
	2月20日 五旬節主日	(聖ヤコブ教会での通常礼拝)
①	2月27日 四旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	3月05日 四旬節第2主日	聖ニコラウス教会 受難曲
	3月12日 四旬節第3主日	(聖ミヒヤエル教会での就任式礼拝)
③	3月19日 四旬節第4主日	聖カタリーナ教会 受難曲
④	3月26日 四旬節第5主日	聖ヤコブ教会 受難曲／大聖堂 受難曲
⑤	3月30日 枝の主日前の木曜日	小ミヒヤエル教会 受難曲
⑥	3月31日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑦	4月01日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
⑧	4月02日 枝の主日	聖ミヒヤエル教会 受難曲
⑨	4月03日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	4月04日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	4月05日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	4月06日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	4月07日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

4) 1725 年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1725, D-Ha, Z 800/0008

(注) この年は、受胎告知日（3月25日）が聖週間と重なる

	日時	教会
	2月04日 六旬節主日	(聖ヤコブ教会での通常礼拝)
①	2月11日 五旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	2月18日 四旬節主日	聖ニコラウス教会 受難曲
③	2月25日 四旬節第2主日	聖カタリーナ教会 受難曲
	3月04日 四旬節第3主日	(聖ミヒヤエル教会での就任式礼拝)
④	3月11日 四旬節第4主日	聖ヤコブ教会 受難曲
⑤	3月18日 四旬節第5主日	聖ミヒヤエル教会 受難曲／大聖堂 受難曲
⑥	3月22日 枝の主日前の木曜日	小ミヒヤエル教会 受難曲
⑦	3月23日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑧	3月24日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
	3月25日 枝の主日／受胎告知日	(聖カタリーナ教会で受胎告知日の礼拝?)
⑨	3月26日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	3月27日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	3月28日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	3月29日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	3月30日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

17～18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成

5) 1726年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1726, D-Ha, Z 800/0008

	日時	教会
	3月03日 五旬節主日	(聖カタリーナ教会での通常礼拝)
①	3月10日 四旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	3月17日 四旬節第2主日	聖ニコラウス教会 受難曲
	3月24日 四旬節第3主日	(聖ミハエル教会での就任式礼拝)
③	3月31日 四旬節第4主日	聖カタリーナ教会 受難曲
④	4月07日 四旬節第5主日	聖ヤコブ教会 受難曲
⑤	4月11日 枝の主日前の木曜日	小ミハエル教会 受難曲
⑥	4月12日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑦	4月13日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
⑧	4月14日 枝の主日	聖ミハエル教会 受難曲/大聖堂 受難曲
⑨	4月15日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マグダレーナ教会 受難曲
⑩	4月16日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	4月17日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	4月18日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	4月19日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

6) 1731 年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1731, D-Hs, *Scrin. A/541*

(注) この年は、受胎告知日（3月25日）が復活祭と重なる

	日時	教会
	1月28日 六旬節主日	(聖ミヒヤエル教会での通常礼拝)
①	2月04日 五旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	2月11日 四旬節主日	聖ニコラウス教会 受難曲
③	2月18日 四旬節第2主日	聖カタリーナ教会 受難曲
	2月25日 四旬節第3主日	(聖ミヒヤエル教会での就任式礼拝)
④	3月04日 四旬節第4主日	聖ヤコブ教会 受難曲／大聖堂 受難曲
⑤	3月11日 四旬節第5主日	聖ミヒヤエル教会 受難曲
⑥	3月15日 枝の主日前の木曜日	小ミヒヤエル教会 受難曲
⑦	3月16日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑧	3月17日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
	3月18日 枝の主日	(聖カタリーナ教会で受胎告知日の礼拝?)
⑨	3月19日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	3月20日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	3月21日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	3月22日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	3月23日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲
	3月24日	聖ペトロ教会 晩課
	3月25日 復活祭主日／受胎告知日	聖ペトロ教会 礼拝
	3月26日 復活祭月曜日	聖ニコラウス教会 礼拝
	3月27日 復活祭火曜日	聖カタリーナ教会 礼拝／大聖堂 礼拝

※ は主要教会を示す。

17～18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成

7) 1738年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1738, D-Ha, Z 800 0008

	日時	教会
	2月16日 五旬節主日	(聖ミヒヤエル教会での通常礼拝)
①	2月23日 四旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	3月02日 四旬節第2主日	聖ニコラウス教会 受難曲
	3月09日 四旬節第3主日	(聖ミヒヤエル教会での就任式礼拝)
③	3月16日 四旬節第4主日	聖カタリーナ教会 受難曲
④	3月23日 四旬節第5主日	聖ヤコブ教会 受難曲／大聖堂 受難曲
⑤	3月27日 枝の主日前の木曜日	小ミヒヤエル教会 受難曲
⑥	3月28日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑦	3月29日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
⑧	3月30日 枝の主日	聖ミヒヤエル教会 受難曲
⑨	3月31日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	4月01日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	4月02日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	4月03日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	4月04日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

8) 1739 年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1739, D-Ha, Z 800 0008

(注) この年は、受胎告知日（3月25日）が聖週間と重なる。

	日時	教会
	2月01日 六旬節主日	(聖ペトロ教会での通常礼拝)
①	2月08日 五旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	2月15日 四旬節主日	聖ニコラウス教会 受難曲
③	2月22日 四旬節第2主日	聖カタリーナ教会 受難曲
	3月01日 四旬節第3主日	(聖ミヒヤエル教会での就任式礼拝)
④	3月08日 四旬節第4主日	聖ヤコブ教会 受難曲
⑤	3月15日 四旬節第5主日	聖ミヒヤエル教会 受難曲／大聖堂 受難曲
⑥	3月19日 枝の主日前の木曜日	小ミヒヤエル教会 受難曲
⑦	3月20日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑧	3月21日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
	3月22日 枝の主日	(聖カタリーナ教会で受胎告知日の礼拝?)
⑨	3月23日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	3月24日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	3月25日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	3月26日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	3月27日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

17～18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成

9) 1740年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1740, D-Hmk, MKGB RAR-Jb

(注) この年は閏年。

	日時	教会
	2月28日 五旬節主日	(聖カタリーナ教会での通常礼拝)
①	3月06日 四旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	3月13日 四旬節第2主日	聖ニコラウス教会 受難曲
	3月20日 四旬節第3主日	(聖ミヒヤエル教会での就任式礼拝)
③	3月27日 四旬節第4主日	聖カタリーナ教会 受難曲
④	4月03日 四旬節第5主日	聖ヤコブ教会 受難曲
⑤	4月07日 枝の主日前の木曜日	小ミヒヤエル教会 受難曲
⑥	4月08日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑦	4月09日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
⑧	4月10日 枝の主日	聖ミヒヤエル教会 受難曲
⑨	4月11日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マグダレーナ教会 受難曲
⑩	4月12日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	4月13日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	4月14日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	4月15日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

10) 1751年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1751, D-MÜu, *Rara 49 4623*

(注) 1748年の火事で主要教会のひとつである聖ミヒャエル教会が焼失したままとなっていたため、この年は聖マリア・マクダレーナ教会を会場として聖ミヒャエル教区のための受難曲演奏が行われた。

	日時	教会
	2月21日 五旬節主日	(聖ニコラウス教会での通常礼拝)
①	2月28日 四旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	3月07日 四旬節第2主日	聖ニコラウス教会 受難曲
	3月14日 四旬節第3主日	(聖マリア・マクダレーナ教会と聖霊教会で礼拝)
③	3月21日 四旬節第4主日	聖カタリーナ教会 受難曲
④	3月28日 四旬節第5主日	聖ヤコブ教会 受難曲
⑤	4月01日 枝の主日前の木曜日	小ミヒャエル教会 受難曲
⑥	4月02日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
⑦	4月03日 枝の主日前の土曜日	聖ヨハネ教会 受難曲
⑧	4月04日 枝の主日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑨	4月05日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	4月06日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	4月07日 枝の主日後の水曜日	ベストホーフ教会 受難曲
⑫	4月08日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	4月09日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

17～18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成

11) 1752年の受難曲演奏スケジュール

資料：Schreibcalender 1752, D-Hs, *Scrin. A/541*

(注) この年は閏年。

(注) この年は、受胎告知日(3月25日)が聖ヨハネ教会の受難曲演奏と重なる。

(注) 1748年の火事で主要教会のひとつである聖ミヒヤエル教会が焼失したままとっていたため、この年は聖マリア・マクダレーナ教会を会場として聖ミヒヤエル教区のための受難曲演奏が行われた。

	日時	教会
	2月13日 五旬節主日	(聖カタリーナ教会での通常礼拝)
①	2月20日 四旬節主日	聖ペトロ教会 受難曲
②	2月27日 四旬節第2主日	聖ニコラウス教会 受難曲
	3月05日 四旬節第3主日	(聖マリア・マクダレーナ教会と聖霊教会で礼拝)
③	3月12日 四旬節第4主日	聖カタリーナ教会 受難曲
④	3月18日	聖ヨハネ教会 受難曲
⑤	3月19日 四旬節第5主日	聖ヤコブ教会 受難曲
⑥	3月23日 枝の主日前の木曜日	小ミヒヤエル教会 受難曲
⑦	3月24日 枝の主日前の金曜日	聖霊教会 受難曲
	3月25日 受胎告知日	(聖カタリーナ教会で受胎告知日の礼拝?)
⑧	3月26日 枝の主日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑨	3月27日 枝の主日後の月曜日	聖マリア・マクダレーナ教会 受難曲
⑩	3月28日 枝の主日後の火曜日	聖ゲルトルート教会 受難曲
⑪	3月29日 枝の主日後の水曜日	ペストホーフ教会 受難曲
⑫	3月30日 聖木曜日	聖パウロ教会 受難曲
⑬	3月31日 聖金曜日	聖三位一体教会 受難曲

※ は主要教会を示す。

注

※本稿は拙稿「ゲオルク・フィリップ・テレマンとハンブルクにおける受難曲の伝統——1722年から1754年までの礼拝用受難曲におけるテレマンの創意」(博士論文, 明治学院大学, 2011年3月)の第1章前半にもとづいている。

- (1) Kurt von Fischer and Werner Braun「受難曲」金沢正剛訳『ニューグローヴ世界音楽大事典』第8巻(講談社, 1994年), 333頁。
- (2) Liselotte Krüger, *Die hamburgische Musikorganisation im XVII. Jahrhundert.* (Strassburg: Heitz & Co., 1933) .
- (3) Reginald LeMonte Sanders, "Carl Philipp Emanuel Bach and Liturgical Music at the Hamburg Principal Churches from 1768 to 1788" (Ph.D. diss., Yale University, 2001) .
- (4) Krüger, 81-85.
- (5) 現存する『シュライプ=カレンダー』のなかで, 1683年のほか, 1703年, 1708年に同様の例外的なスケジュールによる受難曲演奏の例が認められる。
- (6) 現存する『シュライプ=カレンダー』のなかで, 1684, 1689, 1692, 1701, 1704, 1709, 1714, 1720, 1723, 1725, 1731, 1739年の受難曲演奏スケジュールで, この例外的な措置が認められる。このうち, 1704年はお告げの日が復活祭第3日と, 1731年はお告げの日が復活祭と重なっている。したがって, この措置は, 聖週間以外に復活祭の3日間にも適用されたようである。
- (7) 『シュライプ=カレンダー』に関しては, Sanders, 10-34. を参照。
- (8) D-Ha, Z 800/0008.
- (9) Ibid.
- (10) Sanders, 10-22.
- (11) Sanders, 23.
- (12) 本稿で判明した演奏スケジュールを前提に, 当時演奏された受難曲に対する考察は別の機会に譲る。